

# 難聴児支援に関する アンケート調査について (保護者用調査結果)



## 調査の概要

### 1 調査の目的

北海道における難聴児への支援体制を検討するに当たり、難聴児の保護者及び支援に携わる職員の意見を把握するため実施。

### 2 調査対象者

道内（指定都市・中核市を含む。）の難聴児の保護者及び調査対象施設において難聴児支援に携わっている職員（18歳までの難聴児の関係者を中心とするが、過去に携わっていた職員等も含める。）

### 3 調査対象施設

児童発達支援センター、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス、聾学校（乳幼児相談室）、保育所、認定こども園、家庭的保育事業所、小規模保育事業所、事業所内保育事業所、認可外保育施設、幼稚園、特別支援学校幼稚部

### 4 調査方法 ※北海道のHPにも様式と併せて掲載し、周知した。

- ・保護者：3の調査対象施設や市町村障がい福祉主管課及び子ども関係課、小・中学校（義務教育学校を含む。）、高校、特別支援学校を通じ、アンケート調査について周知。
- ・職員：3の調査対象施設を通じ、アンケート調査について周知。

### 5 回答方法

保護者・職員がWebから直接回答又はメール・FAX提出

※保護者調査票については、複数の難聴児を育てている場合、お子さんごとに回答いただいた。

基本的に全質問任意回答とした（例外：その他を選択した場合は、その他の内容の記入は必須とした。）。

※職員調査票については、複数の難聴児の支援に携わった場合、まとめて回答いただいた。

### 6 調査期間

令和7年（2025年）1月31日（金）～3月2日（日）

## 調査結果の表示方法

回答は各質問の回答者数（N）を基礎とした百分率（%）で示す。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならない場合がある。

複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答の比率の合計が100%を超える場合がある。

その他の内容など自由記述の回答は、一部抜粋や要約を行っている。

## 保護者調査結果

全回答者数：188

### ①現在お住まいの市町村がある振興局管内等

振興局管内等	人数	%	振興局管内等	人数	%
空知	5	2.7	上川（旭川市を除く。）	1	0.5
<b>石狩（札幌市を除く。）</b>	<b>17</b>	<b>9.0</b>	<b>旭川市</b>	<b>17</b>	<b>9.0</b>
<b>札幌市</b>	<b>60</b>	<b>31.9</b>	留萌	1	0.5
後志	3	1.6	宗谷	0	0
<b>胆振</b>	<b>19</b>	<b>10.1</b>	オホーツク	11	5.9
日高	2	1.1	<b>十勝</b>	<b>17</b>	<b>9.0</b>
渡島（函館市を除く。）	0	0	釧路	14	7.4
函館市	13	6.9	根室	7	3.7
檜山	0	0	無回答	1	0.5

## 保護者調査結果

全回答者数：188

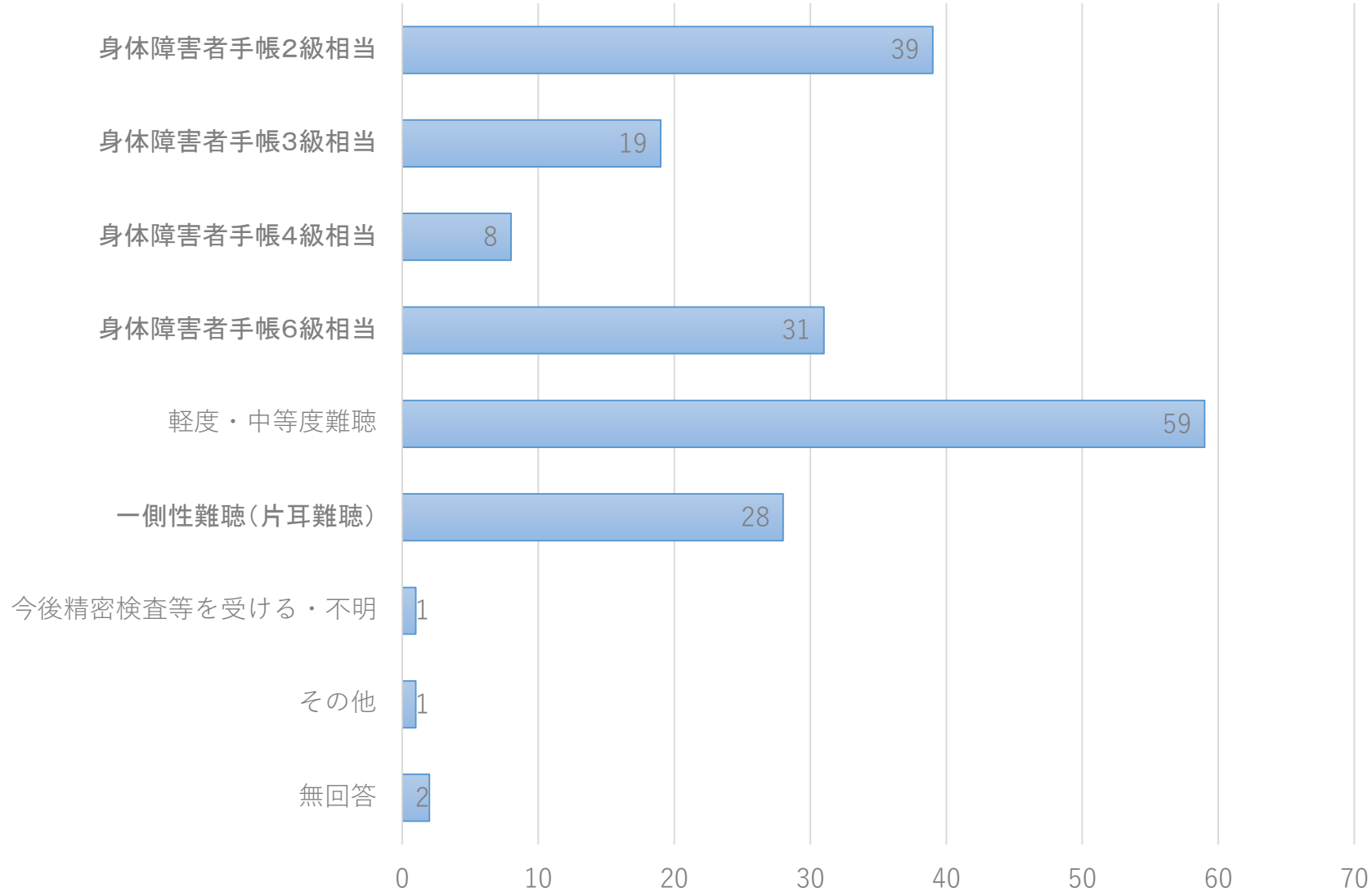
②お子さんの年齢（令和7年（2025年）4月1日現在）

年齢	人数	%	年齢	人数	%
0歳	4	2.1	<b>10歳</b>	<b>13</b>	<b>6.9</b>
1歳	8	4.3	11歳	8	4.3
2歳	8	4.3	12歳	6	3.2
<b>3歳</b>	<b>19</b>	<b>10.1</b>	13歳	6	3.2
<b>4歳</b>	<b>17</b>	<b>9.0</b>	14歳	11	5.9
5歳	10	5.3	15歳	9	4.8
6歳	10	5.3	<b>16歳</b>	<b>13</b>	<b>6.9</b>
7歳	11	5.9	17歳	9	4.8
8歳	10	5.3	18歳	7	3.7
9歳	6	3.2	無回答	3	1.6

# 保護者調査結果

全回答者数：188

## ③お子さんの難聴の程度

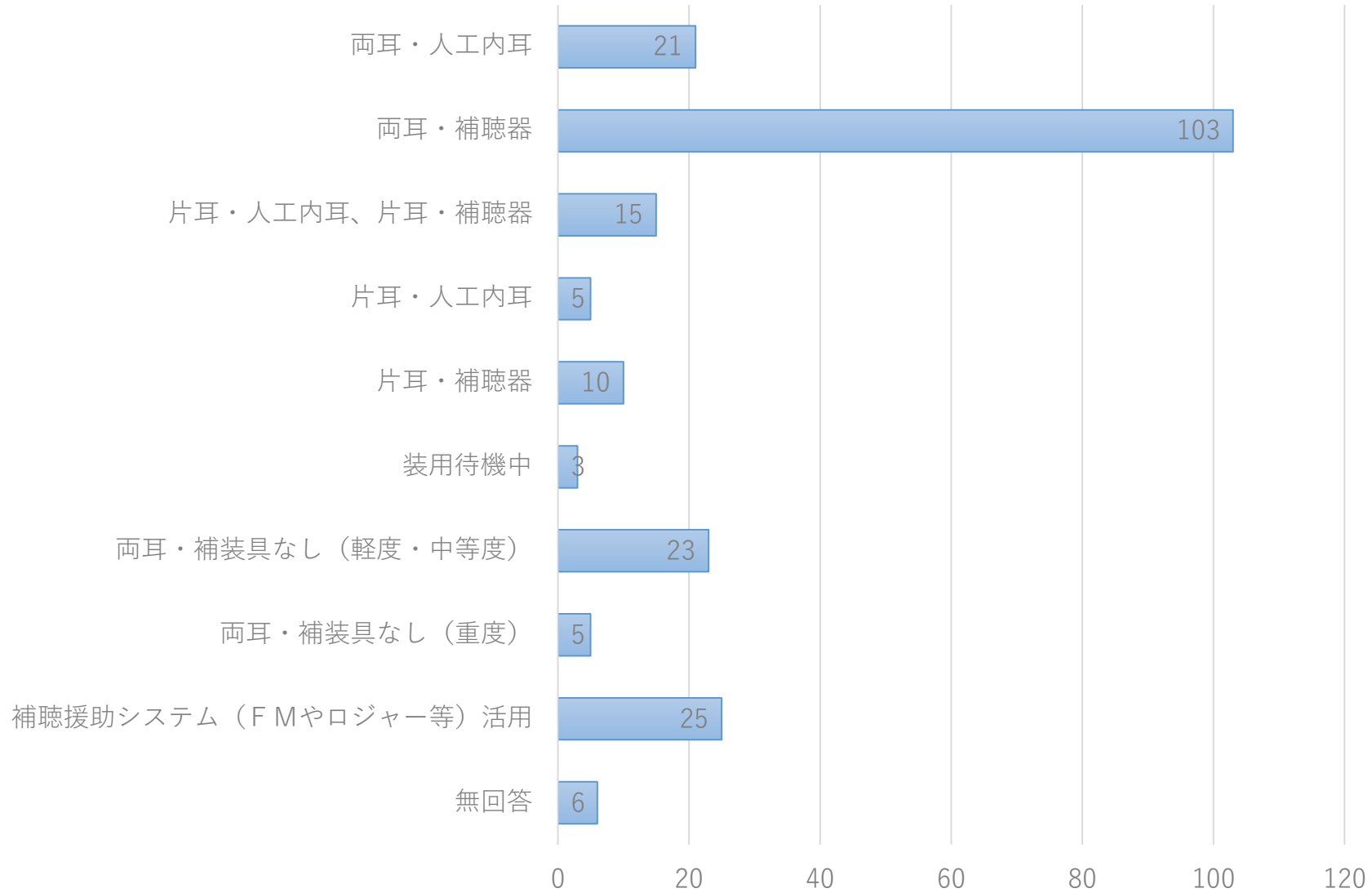


(その他)  
高音領域による難聴

# 保護者調査結果

全回答者数：188

## ④お子さんの難聴の補聴状況（複数選択可）



## 保護者調査結果

全回答者数：188

### ⑤お子さんの難聴以外の障害・疾患（複数選択可）

障害・疾患	人数	%	障害・疾患	人数	%
視覚障害	9	4.8	先天性サイトメガロウイルス感染症	7	3.7
肢体不自由	11	5.9	先天性風疹症候群	0	0
内部障害	5	2.7	先天梅毒	0	0
<b>知的障害</b>	<b>34</b>	<b>18.1</b>	<b>難聴以外の障害は未診断</b>	<b>58</b>	<b>30.9</b>
発達障害 （自閉症スペクトラム等）	32	17.0	その他	22	11.7
言語障害	2	1.1	<b>無回答</b>	<b>60</b>	<b>31.9</b>
重症心身障害	3	1.6			

## 保護者調査結果

全回答者数：188

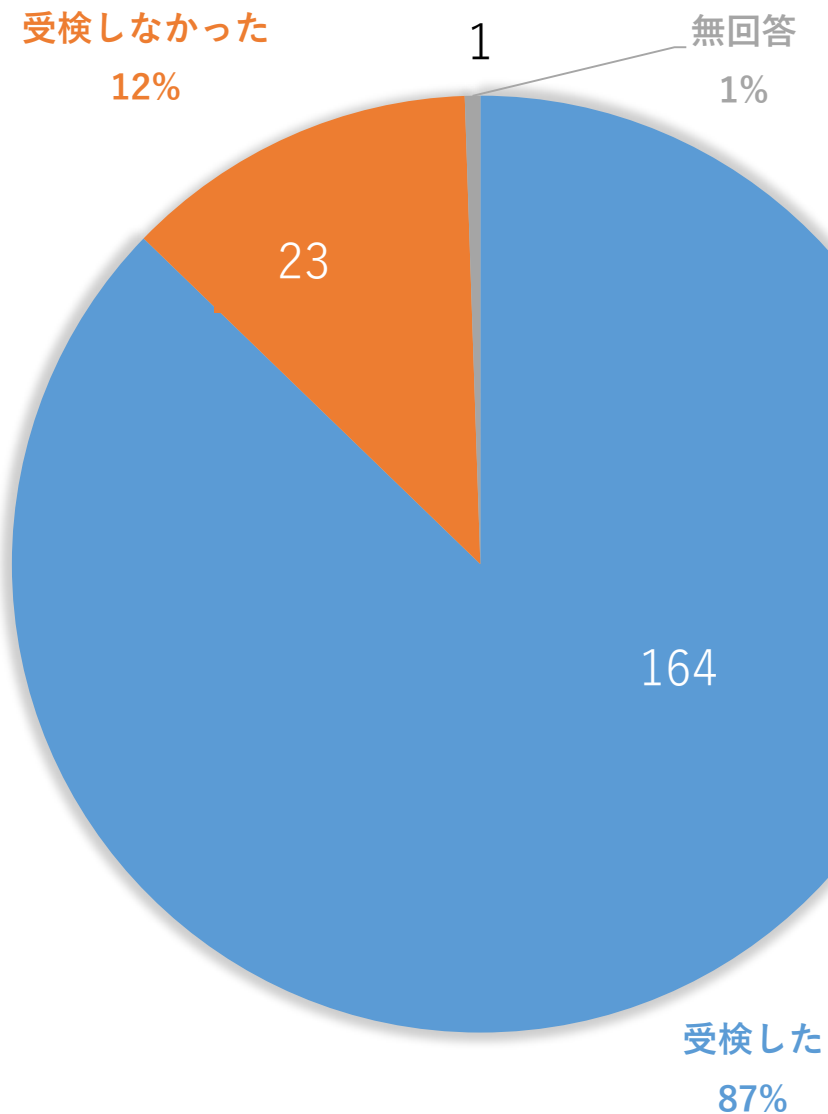
### ⑥お子さんのこれまでに通ったことのある就学先等（複数選択可）

就学先等	人数	%	就学先等	人数	%
保育所	58	30.9	中学校(通常学級)	21	11.2
認定こども園	51	27.1	中学校(特別支援学級)	11	5.9
幼稚園	40	21.3	高等学校	13	6.9
家庭的保育事業所	1	0.5	特別支援学校(幼稚部)	42	22.3
小規模保育事業所	3	1.6	特別支援学校(小学部)	39	20.7
事業所内保育事業所	0	0	特別支援学校(中学部)	22	11.7
認可外保育所 (へきち保育所を含む。)	1	0.5	特別支援学校(高等部)	14	7.4
小学校(通常学級)	48	25.5	未就学児	19	10.1
小学校(特別支援学級)	40	21.3	その他	14	7.4
			無回答	6	3.2

# 保護者調査結果

全回答者数：188

## ⑦お子さんの新生児聴覚検査の受検状況



## ⑧受検しなかった理由

理由	人数	%
任意だったから	3	13.0
自己負担額が高かったから	2	8.7
<b>検査に対応していない病院で出産したから</b>	<b>13</b>	<b>56.5</b>
近親者に難聴者がいなかったから	5	21.7
その他	3	13.0

(その他)

- ・市町村でスクリーニング検査を実施していなかった
- ・病院で希望したがやっていないと言われた
- ・耳が異常と分かったのが小学校就学後だから

## 保護者調査結果

全回答者数：188

(その他)  
 函館中央病院、北海道立心身障害者総合相談所、帯広協会病院、釧路市立病院、民間補聴器会社、就学前に受検

### ⑨お子さんの難聴に係る精密検査の受検状況（複数選択可）

受検病院等	人数	%	受検病院等	人数	%
北海道大学病院	30	16.0	<b>その他の道内の病院</b>	<b>63</b>	<b>33.5</b>
<b>札幌医科大学医学部附属病院</b>	<b>64</b>	<b>34.0</b>	道外の病院	8	4.3
<b>北海道立子ども総合医療・療育センター</b>	<b>32</b>	<b>17.0</b>	新生児聴覚検査はリファア だったが受検しなかった	1	0.5
旭川医科大学病院	26	13.8	新生児聴覚検査はパスだった ため受検しなかった	7	3.7
医療法人耳鼻咽喉科麻生病院	9	4.8	今後受検予定	0	0
医療法人徹仁会厚別耳鼻咽喉科病院	10	5.3	その他	6	3.2
とも耳鼻咽喉科クリニック	11	5.9	無回答	2	1.1
社団医療法人母恋天使病院	4	2.1			

## 保護者調査結果

全回答者数：188

⑩新生児聴覚検査はリファアだったが精密検査を受検しなかった理由  
→無回答

⑪新生児聴覚検査はパスだったため精密検査を受検しなかった方について、  
どのような経緯でお子さんの難聴に気付いたのか。（複数選択可）

理由	人数	%
1歳6か月児検診や3歳児検診などの乳幼児健診時に指摘された	1	14.3
呼び掛けても振り向かないなど音への反応が無かったため	1	14.3
<b>言葉が出なかった・遅れていたため</b>	<b>2</b>	<b>28.6</b>
別の疾患で医療機関を受検した際、指摘された	0	0
<b>その他</b>	<b>4</b>	<b>57.1</b>

(その他)

- ・耳たぶを触っていることが多く、気になり受診した結果、難聴があることが分かった。
- ・保育園の園長先生が障害児に携わってきた先生で、音の反応がないように見えると教えてくれ、市町村で行ってる10か月検診で相談して、札幌大を紹介してもらい受診すると、先天性両耳感音難聴ということが分かった。
- ・新入学の検診で引っ掛かった。
- ・患っている疾患の症状に難聴があると聞いていた。

## 保護者調査結果

全回答者数：188

⑫新生児聴覚検査や精密検査等でお子さんが難聴と分かった後、どのように行動したか（複数選択可）

行動	人数	%	行動	人数	%
<b>医療機関に相談した</b>	<b>149</b>	<b>79.3</b>	SNSで相談した	11	5.9
保健所・保健センターに相談した	35	18.6	専門書を購入して情報を収集した	13	6.9
市町村の相談機関（保健所・保健センターを除く。）に相談した	20	10.6	医療機関等を探した（調べた）	34	18.1
<b>聾学校の乳幼児相談室に相談した</b>	<b>127</b>	<b>67.6</b>	療育機関等を探した（調べた）	35	18.6
児童発達支援センター・児童発達支援事業所に相談した	37	19.7	何もしなかった	6	3.2
当事者や家族の会など難聴児関連団体に相談した	8	4.3	その他	2	1.1
<b>インターネットで情報を収集した</b>	<b>93</b>	<b>49.5</b>	無回答	2	1.1

（その他）

- ・身近に難聴児の保護者がいたため、直接相談した。
- ・医療機関に言われるまま動いた。

# 保護者調査結果

全回答者数：188

⑬新生児聴覚検査や精密検査等でお子さんが難聴と分かった後にとった行動について、良かった点や悪かった点。（自由記述）

○医療機関に相談した

<良かった点>

- ・出生した病院ですぐに紹介状を書いてもらい、精密聴力検査機関や聾学校に繋いでもらったのがよかった。
- ・難聴と分かってから、検査を受けた病院で今現在も言語訓練を受けている。検査、補聴器、訓練とスムーズで、ひとつの病院で済んだことは良かった。

<悪かった点>

- ・病院からは聾学校の紹介などなかったので、紹介してほしかった。
- ・産後は特に不安が大きいので、産院やその後の耳鼻科などで乳相や乳相でやることなど少し先の未来まで、すぐ把握できるようにしてほしかった。

○保健所・保健センターに相談した

<良かった点>

- ・新生児の時から難聴の事は伝えていたので、定期的に担当保健師の方から連絡をいただき聾学校の先生による個別相談の案内をもらったりした。

<悪かった点>

- ・保健センターや産科などで相談したが、今まで経験がない、専門ではないので詳しくないという回答ばかりだった。

○市町村の相談機関（保健所・保健センターを除く。）に相談した

<悪かった点>

- ・転校に迷っていたときの市役所職員の説明が不十分。担当者の上司が子供と聾学校について全く理解していない対応であった。

○聾学校の乳幼児相談室に相談した

<良かった点>

- ・分からないことだらけだったけど、聾学校の乳幼児相談室の先生が親身になって話を聞いてくれたり、自分の子供より年齢が上の子供がいる親を紹介してお話する機会を設けてくれたり、聾学校の乳幼児相談室は、子供が難聴と言われた保護者の片は一度訪れてみるとよいと思う。
- ・小学校入学後難聴と分かったので遅いスタートに発語の心配をされたが、聾学校に素早く対応していただき地元の学校に難聴学級を開設してもらえた事。
- ・乳児相談室で先生が一つ一つ丁寧に説明してくれ、通っている聾者の学生さんの姿を見せてもらったり将来的な子どもの姿をイメージできた事は私の心の安定と子育てに前向きに取り組むきっかけとなりとても感謝している。

<悪かった点>

- ・もっとたくさん乳幼児相談室に行きたいと思ったが入れる回数が少ないと感じたこともあった。
- ・月に1度聾学校にきて下さいと言われたが、平日は仕事だし土日は学校がやっていないため時間を作るのに苦労した。
- ・聾学校は遠く（片道2時間近く）通う度に交通費がかかる。手帳対象外なので高速代も実費。会社も休まなければならない、金銭面的にもかなり苦しい。

○当事者や家族の会など難聴児関連団体に相談した

- ・難聴の子育て経験者に聞いて初めて知ることも多く、支援機関に相談していても得られていない情報や聞かなければ教えてもらえない環境は非常に問題があると感じる。

# 保護者調査結果

全回答者数：188

## ⑬新生児聴覚検査や精密検査等でお子さんが難聴と分かった後にとった行動について、良かった点や悪かった点。（自由記述）

### ○インターネットで情報を収集した

#### <良かった点>

・難聴に関しての知識が全くなかったからとにかくたくさん調べた。難聴の原因が不透明だった時期は、知識を増やして安心する半面不安面も蓄積された。

#### <悪かった点>

・はじめにインターネットで情報収集をしましたが、サイトによってその後の行動が違っていたので何をすべきなのか悩んだ。

・病気に関してインターネットで調べても専門用語で理解するのは難しいこと

### ○SNSで相談した

#### <良かった点>

・軽中等度という同じ立場の方が近くにいなかったので、そこはSNSで同じ悩みや状況になりそうな方を探して情報交換している。

#### <悪かった点>

・難聴の情報がSNSしかないと思い、SNSだと本当なのか不安になったり、疑ったりして悪い情報を信じて思い込んでしまった。

### ○療育機関等を探した（調べた）

・難聴児の療育施設が少なすぎて、情報収集もしづらかった。

### ○何もしなかった

・1歳半検診で発語がなく、難聴の可能性はゼロではない状況があったのにも関わらず、1歳半検診の時に2歳まで様子を見ましようとの事で半年間様子を見たが、結果何も変わらなかった。1歳半検診の時にすぐにでも医療機関に検査に行っていれば半年早く知れて療育出来ていたと思う。

### ○その他

・相談先の選択肢は豊富だった一方で、情報の共有ができず、毎回それぞれに対して、細かな説明が必要だった。

・難聴とわかった時点で、子供のために何をしてあげられるのかわからないと辛いので、すぐ情報が得られるようにしてほしい。

・地方の中等度難聴児に対する情報、体制、対応はかなり遅れており、全て保護者の自助努力に委ねられている点は問題だと感じる。

・支援機関が点在している。コンシェルジュやコーディネーターのような情報を一括して管理する人が欲しかった。親が意思決定能力の乏しい子どもの聞こえに関する決定を、情報が少ない中決定するのは重い。どこに聞いても、それぞれ餅は餅屋と言った感じでそれぞれの観点からの話は聞かせてもらえるけど、統合した話、経験を聞くことはできなかった。

・官でも民でもなんでもいいので、難聴児に関する広く迅速な統一した情報窓口があるといい。

・結局何も分からなかった。先も見えず道からの十分なサポートもなく辛かった。

・悩みを共有できる場がなかなか見つからなかった。

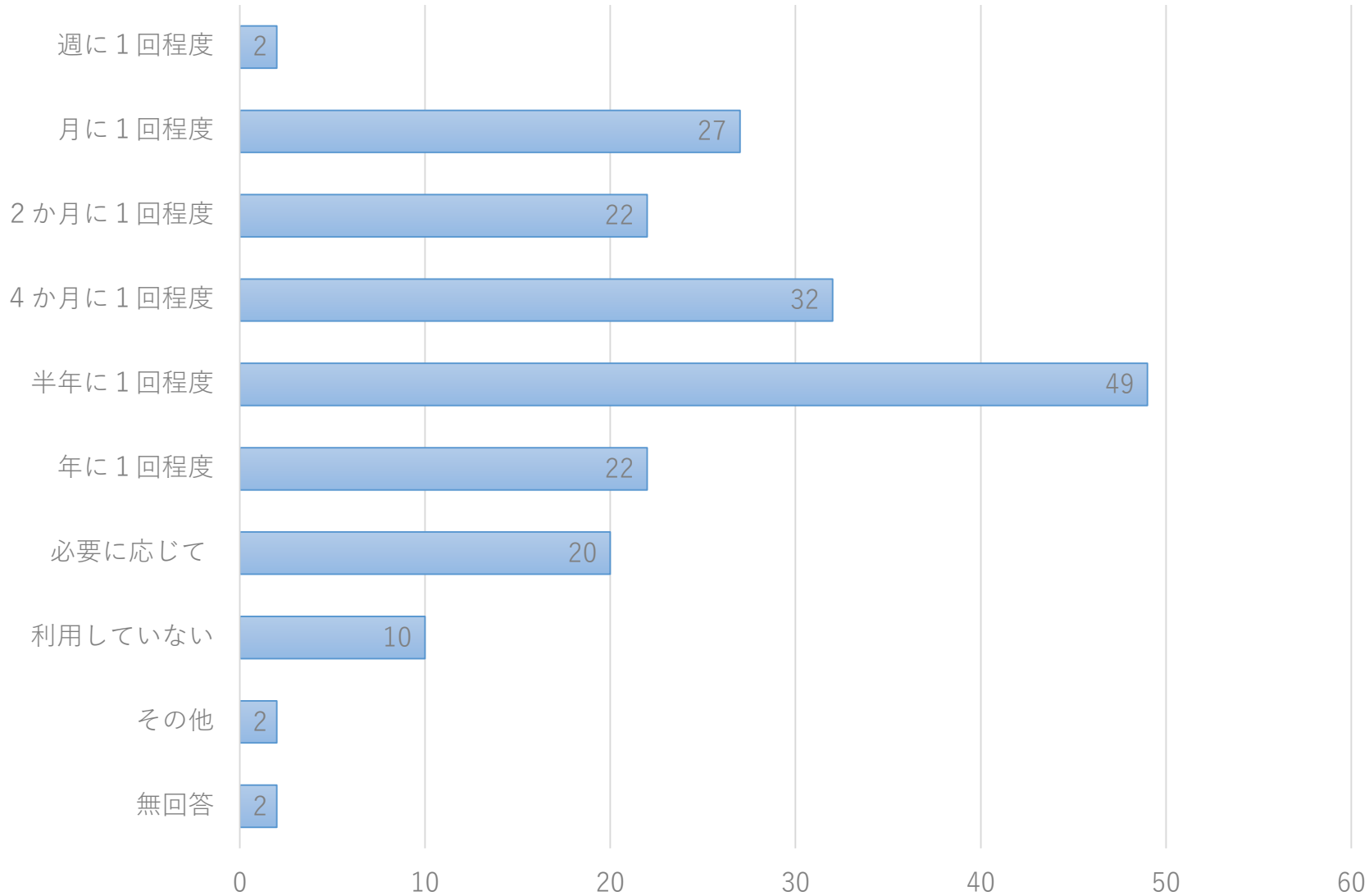
・病院で中等度と診断されてもそれがどのくらいなのか、社会で生きていけるのか、喋ったり聞いたりできるのか、手話があるのか何もわからなくて散々結果だけでは、ただただ不安になるだけだった。



# 保護者調査結果

全回答者数：188

## ⑮お子さんの難聴に係る医療機関等の現在の利用状況

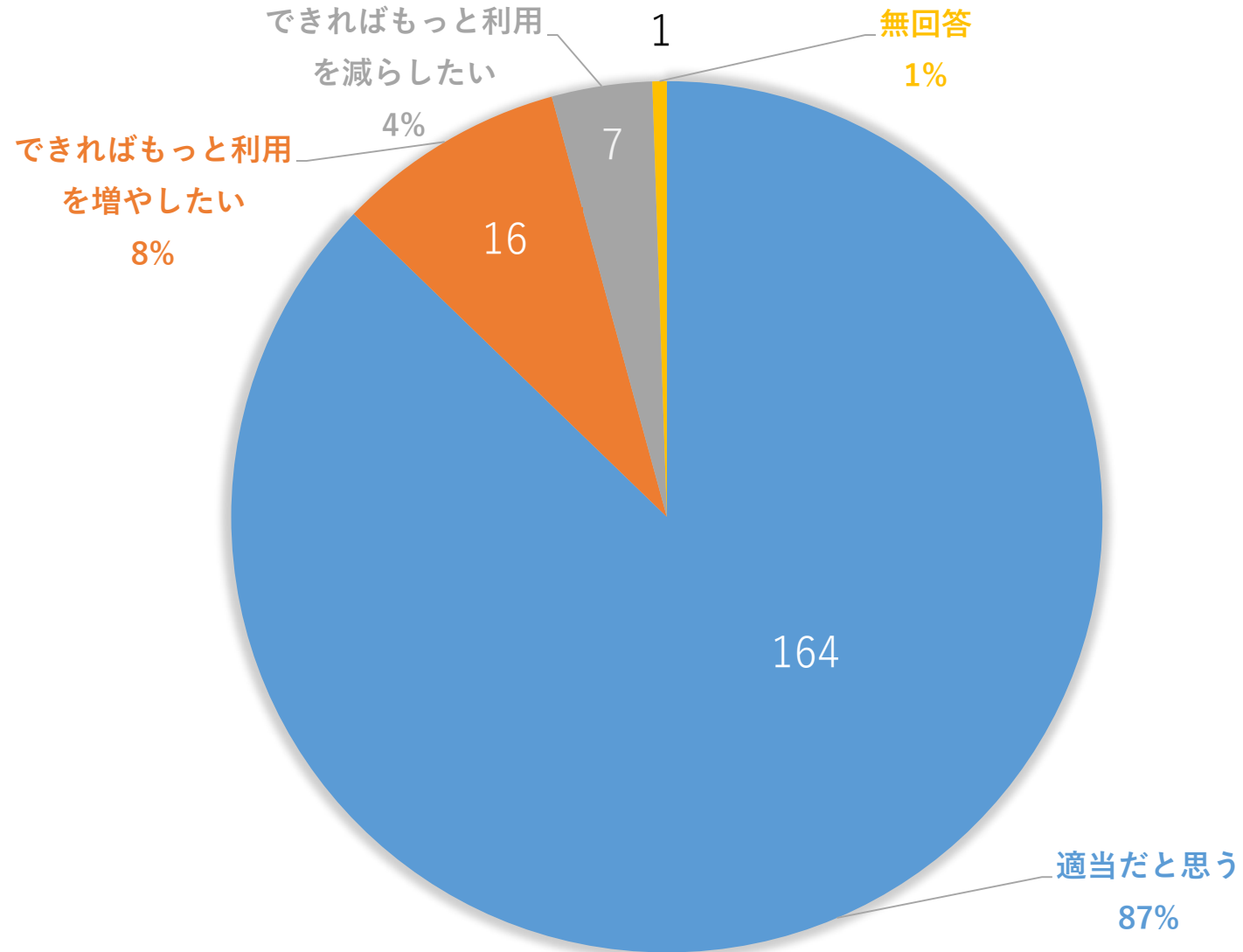


(その他)  
・子どもが小さくて検査をしてもはっきりとした結果が出ず、補聴器がっているのか、どこまで聞こえているのかが分からないため、月に2回くらい経過をみてもらうに通っている。  
・3か月に1回

## 保護者調査結果

全回答者数：188

### ⑩医療機関等の利用状況に対する考え



# 保護者調査結果

全回答者数：188

⑰お子さんの難聴に係る医療機関等の現在の利用状況について、できればもっと利用を増やしたい（減らしたい）と考える理由

## ○増やしたい

### <診察してもらいたいから・相談したいから>

- ・よく耳鳴り・痛みなどの不調がでるときがあり、そのようなときにすぐに相談、受診できる病院が地元にあると心強い。
- ・難聴の変化があったときに適切に処置してもらえと思っていますが、子どもにとって検査疲れするかとも思っている。
- ・医療機関に相談や情報収集する機会を増やせたらと思う。
- ・医療機関への受診は、成長とともに月一で通いたい。
- ・包括的な支援を望むため、回数が足りない。
- ・医療機関ならではの情報収集ができるから。
- ・内耳のトラブルがないかなどチェック出来るから。
- ・これからのことなどを相談したいから
- ・進行性難聴のため、もっと頻繁に見てもらいたい。進行があった場合、見逃したくない。毎日不安。
- ・聞こえにくくなっているのではないかと心配だから。
- ・難聴の発見が遅く、療育もまともに受けていないまま育ててしまったので、子どもの将来に強い不安を抱いている。

### <発達を促したいから>

- ・言語発達に関して、相談や訓練をしたい。
- ・S Tの言語療法が有効な時期のため、利用を増やすことで、健聴児の発達に早く追いつくと思う。
- ・人工内耳手術を受けてから、リハビリ・聴覚検査・訓練と月1回通っているが、週1ぐらいで通えるともっと色々出来るようになるのではないかと思っている。やはりその道のプロの先生に関わってもらおうと安心する。

## ○減らしたい

### <遠距離等で通院が困難だから>

- ・医療機関まで遠距離なので頻回には通院出来ない。年に1回でも大変なときがある。
- ・難聴が分かった頃に比べて聞こえの変化も補聴器調整も現状維持なのと会話もある程度できているので、もう少し間隔を空けられたらと感じている。冬場の通院が、大変だと感じる。
- ・中耳炎にかかりやすいので治療のため仕方ないが、通院に時間がかかるので、中耳炎にならなければ2か月に1度くらいで済むので減らしたい。
- ・もう中学生で聴こえも安定しているのと塾等で忙しいため。

### <何のために通っているか分からないから>

- ・市町村の医療機関に3か月に1回程度通っているが、特に検査をするわけでもないため、何のために通っているか分からない。もし何か理由があるのであれば、現状維持でも構わない。

## 保護者調査結果

全回答者数：188

⑩お子さんのこれまでに利用した療育機関（複数選択可）

療育機関	人数	%
児童発達支援事業所（児童発達支援センターを含む。）	97	51.6
放課後等デイサービス	74	39.4
聾学校の乳幼児相談室	135	71.8
療育機関等を利用していない	16	8.5
その他	6	3.2
無回答	6	3.2

（その他）

・病院、北海道立心身障害者総合相談所、聞こえの教室、盲学校の乳幼児相談室

## 保護者調査結果

全回答者数：188

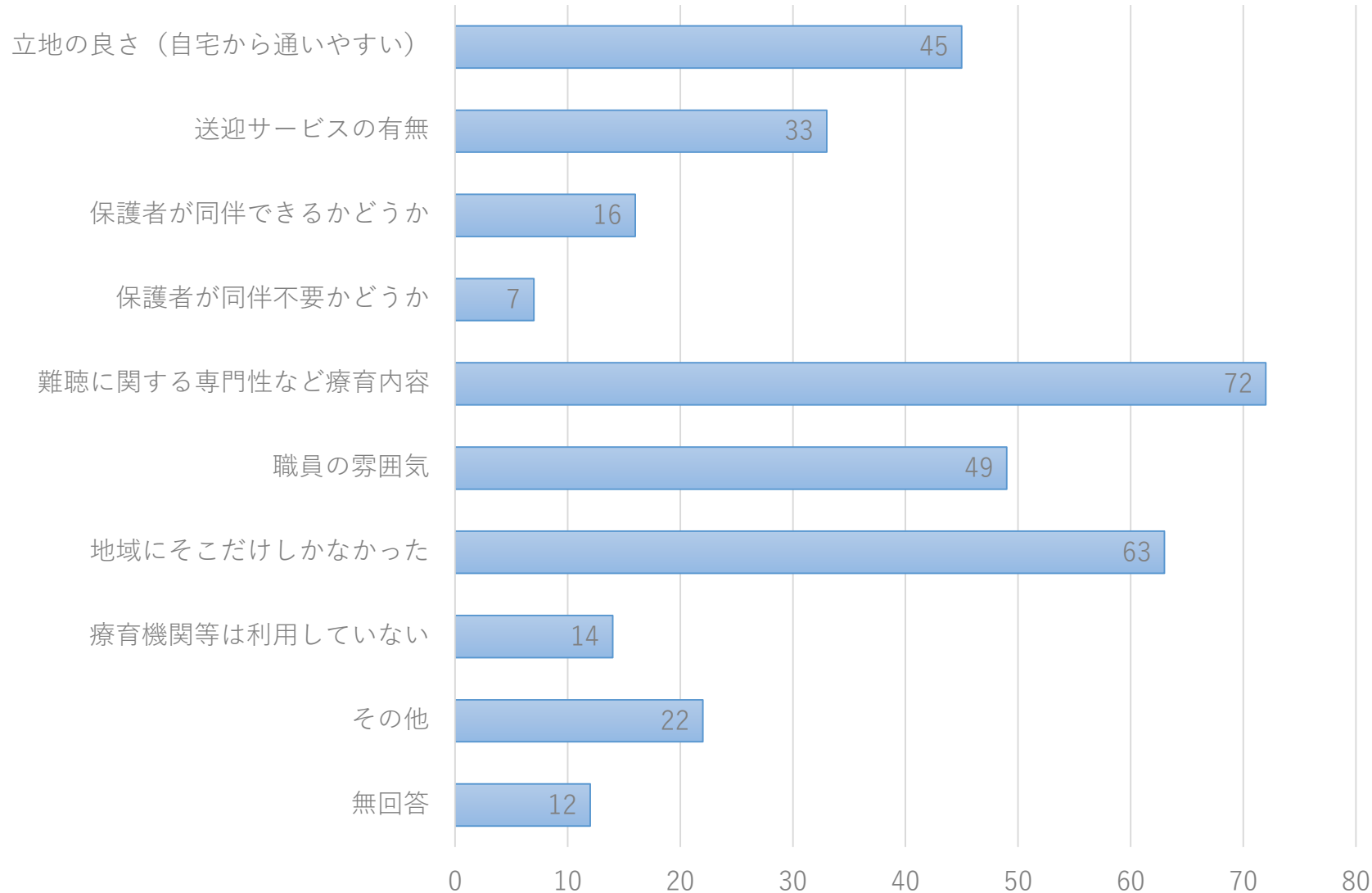
### ⑱療育機関等を初めて訪問したときのお子さんの年齢

年齢	人数	%	年齢	人数	%	年齢	人数	%
<b>0歳</b>	<b>79</b>	<b>42.0</b>	うち9か月	1	0.5	6歳	3	1.6
うち1か月	2	1.1	うち10か月	6	3.2	7歳	3	1.6
うち2か月	2	1.1	うち11か月	2	1.1	8歳	2	1.1
うち3か月	12	6.4	うち無回答	1	0.5	9歳	1	0.5
うち4か月	8	4.3	<b>1歳</b>	<b>22</b>	<b>11.7</b>	10歳	1	0.5
うち5か月	10	5.3	<b>2歳</b>	<b>27</b>	<b>14.4</b>	11歳	0	0
<b>うち6か月</b>	<b>23</b>	<b>12.2</b>	3歳	16	8.5	12歳	0	0
うち7か月	7	3.7	4歳	3	1.6	13歳	1	0.5
うち8か月	5	2.7	5歳	5	2.7	無回答	25	13.3

# 保護者調査結果

全回答者数：188

## ⑳療育機関等はどのような理由で選んだか。（複数選択可）



- （その他）
- ・病院から紹介された。
  - ・保健師に紹介された。
  - ・聾学校のママ友に紹介された。
  - ・新聞で唯一知った場所だった
  - ・病院で偶然知った。療育機関の選び方や案内場所などが分からない。
  - ・兄弟が通っている
  - ・通院している耳鼻科が運営している療育機関なので、療育の状況や診察結果などが細かく伝わるから。
  - ・サイトメガロに詳しいかどうか
  - ・活動内容を重視して選んだ。
  - ・心の安心。どこであろうと相談したいと思った。

## 保護者調査結果

全回答者数：188

②①お子さんの療育機関等を選ぶ際、どのように行動したか（複数選択可）

行動	人数	%	行動	人数	%
医療機関に相談した	77	41.0	インターネットで情報を収集した	35	18.6
保健所・保健センターに相談した	35	18.6	SNSで相談した	1	0.5
市町村の相談機関（保健所・保健センターを除く。）に相談した	26	13.8	専門書を購入して情報を収集した	2	1.1
聾学校の乳幼児相談室に相談した	83	44.1	療育機関等を利用していない	14	7.4
児童発達支援センター・児童発達支援事業所に相談した	34	18.1	その他	14	7.4
当事者や家族の会など難聴児関連団体に相談した	4	2.1	無回答	12	6.4

（その他）・実際に見学しに行った。 ・保健師に勧められた。 ・友人のSTに相談  
 ・聾学校などで出会った難聴の子をもつ親御さん ・新聞で知ることができた  
 ・区役所の窓口で療育機関が掲載されている冊子をもらい、それを基本に探した。  
 ・仕事柄、知っていた。 ・兄弟が通所していた。 ・そこしか無かった。  
 ・選ぶという感じではなかった。もっと詳しく聞ける場所が欲しい  
 ・知的障害からの利用をされていて入ってから難聴になったので、難聴に関しての選択はなかった。

## 保護者調査結果

全回答者数：188

②お子さんの療育機関等を選ぶ際、参考になった情報、このような情報・相談先があれば良かったというもの。（自由記述）

### <参考になった情報>

- ・支援センターから教えてもらい、市の福祉課に行ったら放課後等デイサービス施設の一覧があったのが選びやすかった。近いところを数か所、子どもと見学に行って安全かどうかや、職員さん子どもたちの雰囲気、子どもたちの特性をみたり聞いたりして合うところにした。
- ・保健師さんが色々娘に合いそうな医療型施設を探してくれたので、今通えていてとても助かりました。
- ・聾学校の乳幼児相談室で、難聴の保護者とお話をする機会を設けてくれて、こんな療育先があるなど話をすることが出来て良かった。

### <このような情報・相談先があれば良かったというもの>

- ・難聴児も対応できるデイサービスをピックアップして、市役所等で教えて欲しかった。  
自分で調べたところは、難聴児への対応の仕方がわからない、配慮が難しい等で断られることが多かった。
- ・当事者や家族の会があれば実態を相談できて療育機関等もわかったと思う。
- ・STや小児の難聴に詳しいスタッフがいるか、手話などに精通しているか。
- ・言語訓練がどんなものなのかを口頭で説明を受けましたが、書面で分かりやすいものがあったら良かったと思います。
- ・難聴が分かった際に、病院から聾学校の乳幼児相談室に行って補聴器を作るよう言われたため、他の情報は何もなかった。もし他にも選択肢があるのであれば、病院での案内をして欲しかった。
- ・受けられる補助や手当もあれば、もっと早く知りたかった。

全回答者数：188

②お子さんが受けた療育内容について、受けて良かったもの、こういうものがあれば良かったというもの。（自由記述）

### <受けて良かったもの>

- ・聾者との関わり、手話の習得で親子の会話が成立できたことは本当によかった。
- ・発育の母音の口話訓練や舌の動かし方の訓練は会話ができる大きな一歩だったと思うので医療機関や聾学校で受けて良かったと思った。
- ・言語聴覚士による、幼児期から学童期にかけて、難聴児特有の課題へのアプローチ。
- ・乳幼児相談での療育は、いろいろなアプローチで音や聞こえることに関心をもてるように働きかける内容が取り入れられていて、子どもによい刺激になって良かった。
- ・リトミックが中心のデイサービスに行きました。難聴でも音楽にのって何かをする楽しみを体験できたと思うので行かせて良かったと思う。

### <こういうものがあれば良かったというもの>

- ・難聴に必要な言葉カードや、手話、指文字があると良い。自宅用にもあるといいと思う。
- ・子供に対してだけでなく、こんな時にはどのように対応すべきかなど、保護者向けのセミナーなどがあると良い。
- ・言語聴覚士による訓練を医療機関以外(例えば幼児期まで聾学校で等)があれば利用したかった。
- ・聴覚障害があることによって、成長や社会生活での困りごと、どのような準備をしていたら良いのか等が分かると、幼小中高、社会人と自立していくために必要な選択をしやすいかと思いました。
- ・手話講座があるといい。

# 保護者調査結果

全回答者数：188

## ⑭保護者ご自身が医療機関、療育機関、行政機関等から受けた支援や説明等についての評価

支援や説明等	とても役に立った		まあまあ役に立った		どちらともいえない		少し物足りなかった		役に立たなかった		そういった支援や説明等は受けていないが、特に必要なかった		そういった支援や説明等は欲しかったが、受けていない		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
①聴覚障害についての説明	<b>84</b>	<b>44.7</b>	50	26.6	16	8.5	19	10.1	2	1.1	6	3.2	9	4.8	2	1.1
②お子さん自身のきこえについての説明	<b>91</b>	<b>48.4</b>	<b>56</b>	<b>29.8</b>	18	9.6	12	6.4	0	0	5	2.7	4	2.1	2	1.1
③補聴器についての説明	<b>90</b>	<b>47.9</b>	39	20.7	24	12.8	17	9.0	1	0.5	4	2.1	7	3.7	6	3.2
④人工内耳についての説明	43	22.9	23	12.2	14	7.4	10	5.3	4	2.1	<b>57</b>	<b>30.3</b>	18	9.6	19	10.1
⑤聴覚活用について日常生活の中で具体的な方法の説明と支援	<b>71</b>	<b>37.8</b>	47	25.0	22	11.7	8	4.3	3	1.6	15	8.0	15	8.0	7	3.7
⑥手話についての説明、実際の活用についての支援	44	23.4	29	15.4	16	8.5	10	5.3	3	1.6	<b>55</b>	<b>29.3</b>	24	12.8	7	3.7
⑦具体的な育児、発達促進に関する説明や支援	<b>65</b>	<b>34.6</b>	47	25.0	25	13.3	18	9.6	1	0.5	14	7.4	13	6.9	5	2.7
⑧お子さんとのコミュニケーションの取り方の具体的な方法の説明や支援	<b>82</b>	<b>43.6</b>	48	25.5	14	7.4	10	5.3	2	1.1	18	9.6	12	6.4	2	1.1
⑨言語発達支援について具体的な方法の説明や支援	<b>74</b>	<b>39.4</b>	43	22.9	20	10.6	17	9.0	2	1.1	15	8.0	13	6.9	4	2.1
⑩おもちゃ、絵、絵本などいろいろな教材の扱い方についての説明や支援	<b>60</b>	<b>31.9</b>	48	25.5	20	10.6	9	4.8	4	2.1	22	11.7	22	11.7	3	1.6

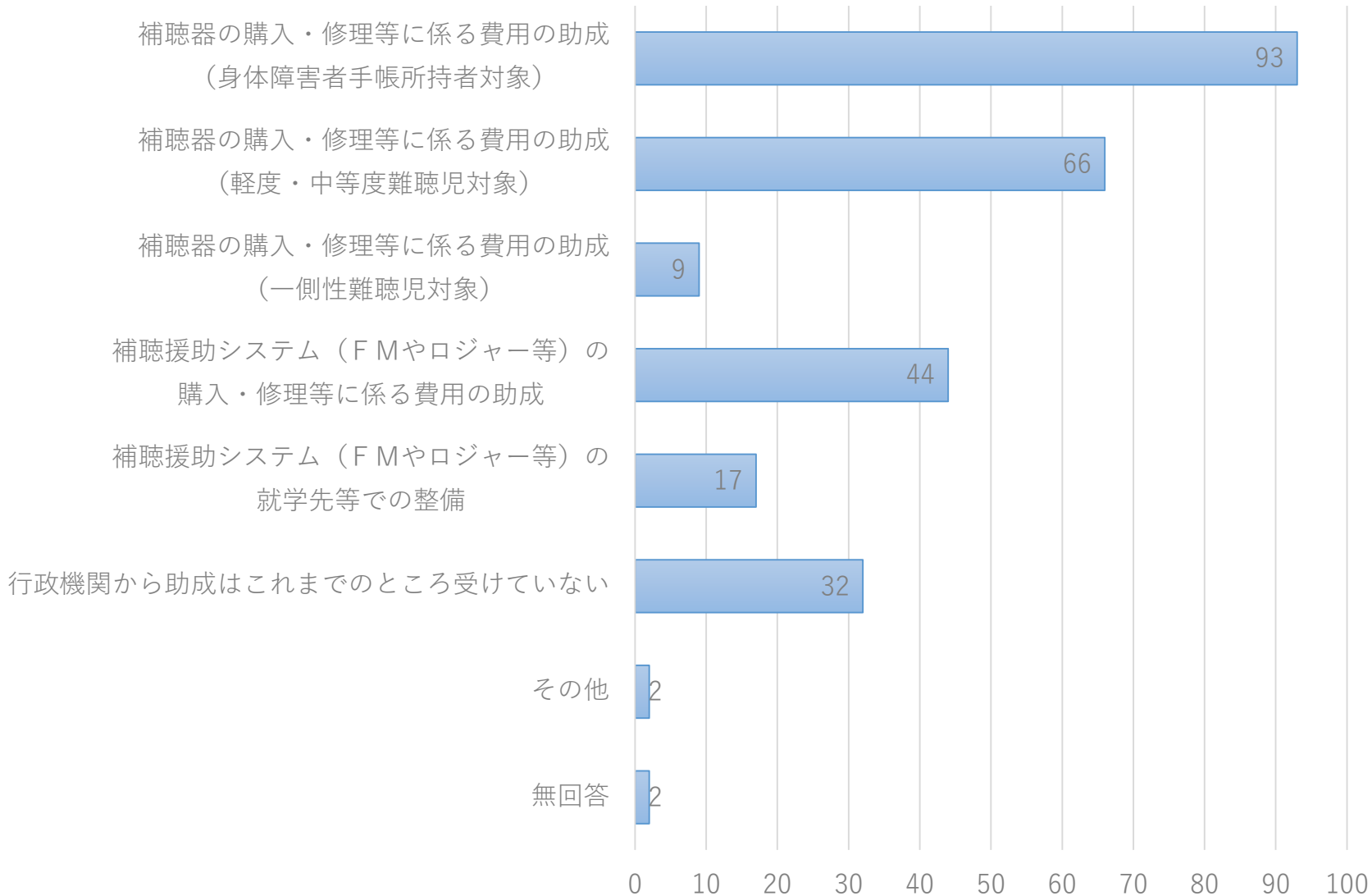
# 保護者調査結果

支援や説明等	とても役に立った		まあまあ役に立った		どちらともいえない		少し物足りなかった		役に立たなかった		そういった支援や説明等は受けていないが、特に必要なかった		そういった支援や説明等は欲しかったが、受けていない		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
⑪福祉制度、利用方法などについての情報の提供と説明	48	25.5	37	19.7	23	12.2	28	14.9	5	2.7	17	9.0	26	13.8	4	2.1
⑫お子さんのこと、家族のことなど個別の悩み、困り感の相談への対応	67	35.6	49	26.1	19	10.1	9	4.8	6	3.2	21	11.2	14	7.4	3	1.6
⑬障害を受け止めることについての悩み、相談への助言や支援	54	28.7	35	18.6	27	14.4	12	6.4	9	4.8	29	15.4	19	10.1	3	1.6
⑭保護者同士の交流や話し合いの場の設定	47	25.0	37	19.7	26	13.8	14	7.4	4	2.1	28	14.9	29	15.4	3	1.6
⑮3歳児からの進路についての様々な情報の提供	54	28.7	36	19.1	23	12.2	17	9.0	7	3.7	21	11.2	28	14.9	2	1.1
⑯小学校以上の教育や将来についての情報の提供	46	24.5	35	18.6	33	17.6	22	11.7	4	2.1	15	8.0	31	16.5	2	1.1
⑰講演会や学習会の機会の提供	33	17.6	33	17.6	34	18.1	19	10.1	4	2.1	32	17.0	30	16.0	3	1.6
⑱保育所や幼稚園に関する相談への対応	46	24.5	28	14.9	36	19.1	8	4.3	11	5.9	30	16.0	25	13.3	4	2.1
⑲相談機関（窓口）についての情報の提供	37	19.7	28	14.9	36	19.1	28	14.9	8	4.3	20	10.6	29	15.4	2	1.1
⑳療育機関等についての情報の提供	50	26.6	35	18.6	30	16.0	22	11.7	5	2.7	18	9.6	23	12.2	5	2.7
㉑医療機関等についての情報の提供	63	33.5	36	19.1	34	18.1	12	6.4	4	2.1	14	7.4	22	11.7	3	1.6

# 保護者調査結果

全回答者数：188

## ⑤お子さんの難聴に関わり、行政機関から受けたことのある助成。（複数選択可）

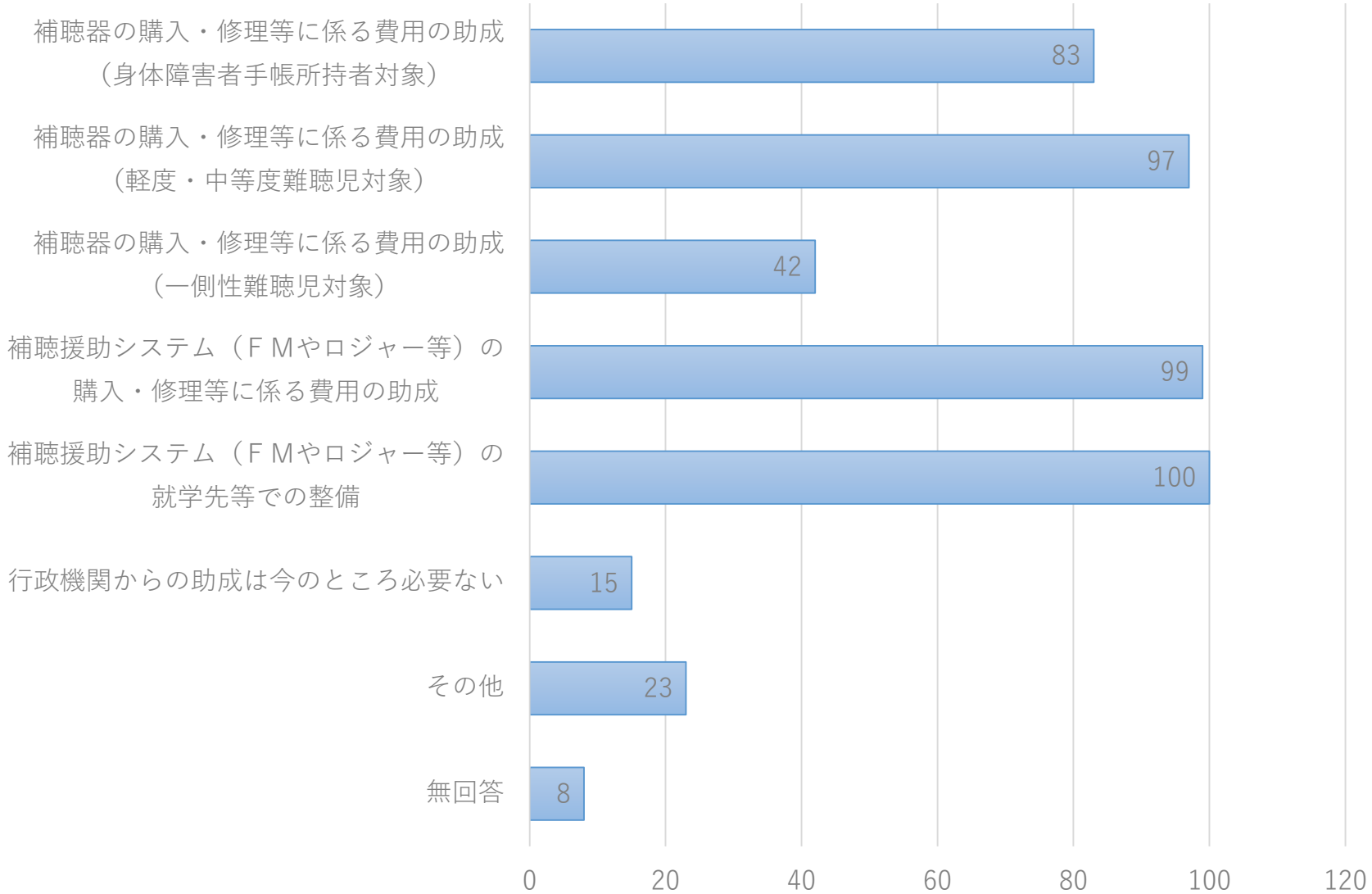


(その他)  
・行政機関は障害者への福祉の冊子を渡すだけで、詳しく説明などはない。人工内耳についての知識も全くない。  
・所得制限で受けることができなかった。

# 保護者調査結果

全回答者数：188

## ②⑥お子さんの難聴に関わり、行政機関からの助成として欲しいもの。（複数選択可）



全回答者数：188

### ②⑥お子さんの難聴に関わり、行政機関からの助成として欲しいもので「その他」の内容

<補装具関係>

・ 全ての市町村で、軽度・中程度の難聴児の補聴器購入支援が行われるべき。

早めの購入がその子の今後の言葉の発達度合いにつながるので、是非全道で補聴器購入支援をお願いしたい。

- ・ 自市町村では骨伝導の補聴器は助成の対象外と言われた。本人も補聴器を嫌がり、補聴器を買えるのは札幌の業者のみ。お試しも聾学校でのみ1日。自分の学校でお試しもできないので、本人が付けるか分からないのに高額の物を買うのもためらい買ってない。市町村で助成の有無の差があるので、一律で助成してもらいたい。

- ・ 成人するまでの補聴器の買い替えを短いスパンでできるようにしてほしい。

現時点では修理不能になるまで買い替えできないのがもどかしい。

- ・ 小耳症の子のために作られた補聴器の助成がない。付けてあげたいのに経済的に高すぎて買えない。

全ての補聴器に助成が出るととても有り難い。

- ・ 人工内耳の充電電池の購入助成について、一部負担ではなく全額負担にしてもらいたい。

また、充電電池の購入の助成は、一定期間を置かなければ申請出来ない状況だが、

耳は2個あるのに1個しか申請できないのはおかしい。充電電池の対応年数は使用頻度により変わる。

充電が切れたらもう使用不可になるのにもかかわらずマニュアルの対応年数を経過しなければ申請できないのはおかしい。

- ・ 耳掛け型人工内耳のイヤーマールド作成

- ・ 人工内耳の修理対象部品の補助拡大

- ・ 人工内耳の充電電池購入の補助（保険適用や購入の助成など）

- ・ 補聴器のボタン電池購入の補助（購入チケットとか割引精度）

・ 軽中の18歳以上の補聴器助成

- ・ 親の所得制限で、身体障害者手帳保持者でも、補聴器購入と修理、イヤーマールド購入、人工内耳に至っても

全て助成対象外となっているので、所得制限を無くしてほしい。 ※令和6年度から所得制限は撤廃されました

## 保護者調査結果

全回答者数：188

### ②⑥お子さんの難聴に関わり、行政機関からの助成として欲しいもので「その他」の内容

#### <経済関係>

- ・聾学校が遠く、通うために家族バラバラで暮らすしかなかった。  
離れた土地で二世帯賄わなければならず、経済的に辛かった。生活費に少しでも支援があったらと思う。
- ・軽度・中等度難聴だと特別児童扶養手当も対象外になる。子どもの療育のために、どうか支援を検討してもらいたい。

#### <学校関係>

- ・学校までの**送迎**
- ・聾学校への交通費
- ・保育園や小学校へ行くときに本人に付いてくれる先生が最初は必要。
- ・学校でロジャーマイクやパスアラウンドマイクを準備してほしい

#### <一側性難聴（片耳難聴）関係>

- ・片耳が聞こえないのも障害だと思いのので、何らかの行政からの支援があってもいいと思う。  
医療費その他補助を検討してほしい。

#### <相談体制関係>

- ・話を聞いてくれるコーディネーターが少ない
- ・聴力検査をもっと頻繁に行ってほしい。幼いうちは判定が様々で、なかなかどの状態なのか掴めない。

#### <研修・啓発関係>

- ・手話講座受講など勉強会への助成
- ・補聴器の付け方や嫌がった際の対処法などをもっと知りたい。

## 保護者調査結果

全回答者数：188

(その他) 補聴器会社・補聴器センター・補聴器の専門家  
 ・難聴児、難聴者に対する教育サービス（遠隔支援）で、  
 LINEによる相談及び小学生までを対象とした毎月の教材  
 ・自分自身が難聴のため、あまり相談することはない。

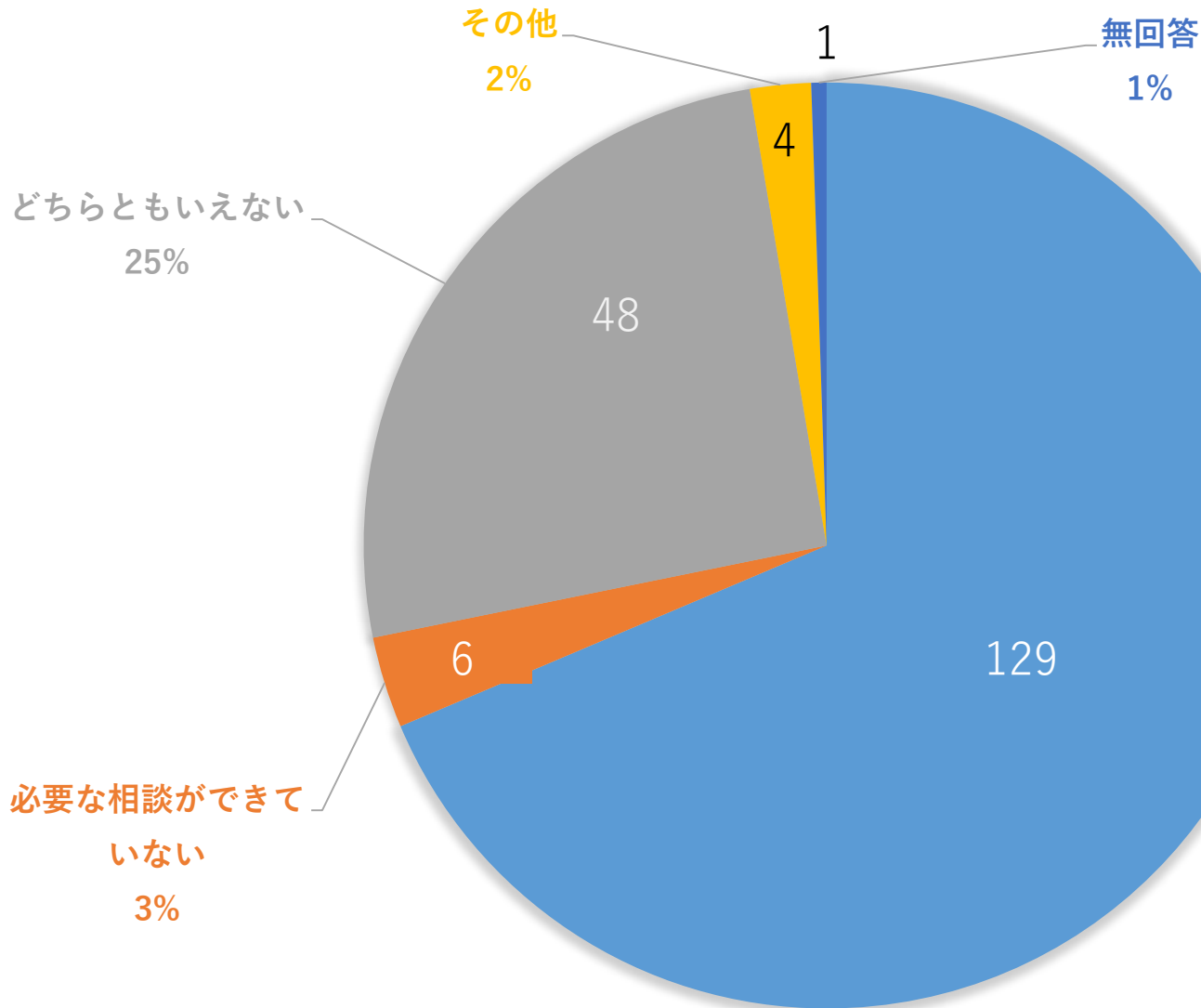
②7 お子さんの難聴について日頃相談されている先（複数選択可）

相談先	人数	%	相談先	人数	%
医師	95	50.5	学校・保育所等の教職員	40	21.3
看護師	6	3.2	知人・友人	18	9.6
医療ソーシャルワーカー （メディカルソーシャルワーカー）	1	0.5	難聴児関連団体	7	3.7
言語聴覚士	89	47.3	他の難聴児の保護者	49	26.1
保健師	8	4.3	家族	62	33.0
児童発達支援事業所（児童発達支援センターを含む。）や放課後等デイサービスの職員	40	21.3	SNS	15	8.0
聾学校の教職員	99	52.7	その他	9	4.8
行政機関の職員	7	3.7	無回答	2	1.1

# 保護者調査結果

全回答者数：188

⑳ これまでお子さんの難聴に関し、必要な相談はできているか。



(その他)

- ・ 半分以下だと思う。
- ・ 特に相談することはない。
- ・ 良い言語聴覚士に出会えたので必要な相談ができている。それ以前はできていなかった。
- ・ 難聴に詳しい、札幌の医療関係の方、療育の先生、聾学校に相談するのがほとんどで、自市町村での相談はできない。

## 保護者調査結果

全回答者数：188

②⑨お子さんの難聴に関し、医療機関や療育機関、行政機関等に相談するに当たって、どのような点を重視するか。

項目	最も重視するもの		2番目に重視するもの		3番目に重視するもの	
	人数	%	人数	%	人数	%
自宅に訪問してもらって相談することができる	7	3.7	16	8.5	22	11.7
<b>自宅から通える距離で相談することができる</b>	<b>117</b>	<b>62.2</b>	<b>41</b>	<b>21.8</b>	18	9.6
自宅からオンラインで相談することができる	8	4.3	28	14.9	44	23.4
自宅から遠方にあるが、専門的な知見を有する人 に 対 面 又 は オ ン ラ イ ン で 相 談 す る こ と が で き る	38	20.2	54	28.7	27	14.4
保健師に仲介してもらって相談することができる	2	1.1	12	6.4	14	7.4
障害児通所支援事業所に仲介してもらって相談 す る こ と が で き る	7	3.7	15	8.0	<b>27</b>	<b>14.4</b>
その他	3	1.6	8	4.3	13	6.9
無回答	6	3.2	14	7.4	23	12.2

## 保護者調査結果

全回答者数：188

⑳お子さんの難聴に関し、医療機関や療育機関、行政機関等に相談するに当たって、どのような点を重視するか「その他」の内容

<人材>

- ・ 都市部だけではなく、どのような地域でも知識が豊富な窓口があればいい。 ネットでの相談はそんなに必要ない。
- ・ 本人や親が相談したいと思える相手かどうか（雰囲気や知識、相談しやすいかどうか）
- ・ 補聴器センターの方に相談できる
- ・ 養護学校の先生に介入してもらいたい

<対応内容>

- ・ 対面でもオンラインでもきちんと説明してもらえる状況が望ましい。
- ・ 相談ではなく、解決に向かって行動してくれること。

<サービス内容>

- ・ 遠方でも送迎してもらえること
- ・ 農村部で移動に時間が掛かるので、リモートが必要。
- ・ 利用できる頻度

<その他>

- ・ 聾学校に相談する方が答えが早くみつかると
- ・ 市町村の難聴者に対する制度などがあまり分からないため、今までほとんど相談もしていないし、どこにすればいいのかも分からないため利用できない。もし利用できるならするかもしれない。

## 保護者調査結果

全回答者数：188

③⑩どんな人が相談対応してくれるといいですか（複数選択可）

相談先	人数	%	相談先	人数	%
医師	115	61.2	行政機関の職員	36	19.1
看護師	28	14.9	学校・保育所等の教職員	66	35.1
医療ソーシャルワーカー （メディカルソーシャルワーカー）	36	19.1	難聴児関連団体	58	30.9
言語聴覚士	143	76.1	他の難聴児の保護者	61	32.4
保健師	30	16.0	その他	3	1.6
児童発達支援事業所（児童発達支援センターを含む。）や放課後等デイサービスの職員	59	31.4	無回答	1	0.5
聾学校の教職員	114	60.6			

（その他）

- ・補聴器センターの方
- ・難聴児専門に研究をしている方
- ・難聴者

## 保護者調査結果

全回答者数：188

③①難聴児支援についてその他ご意見や現在の生活の中で困っていること、お子さんにしてあげたいこと等。（自由記述）

### <助成関係>

- ・軽度・中等度難聴児や一側性難聴、小耳症等の身体障害者手帳の対象外の児への助成
- ・18歳以上への助成
- ・補聴援助システムの助成
- ・メンテナンス費用への助成

### <就学関係>

- ・就学後に適応できるか心配
- ・専門的指導がしてもらえるか心配
- ・オープン教室への不安
- ・聾学校への通学に係る負担
- ・寄宿舎への不安
- ・聾学校幼稚部と幼稚園・保育園の併用

### <療育関係>

- ・言語訓練ができる環境
- ・専門職が不足している

### <補装具関係>

- ・スポーツをするときにも使える補聴器があるといい
- ・補聴器への慣れ

### <聞こえ関係>

- ・聴力の変化への不安
- ・相談体制がほしい
- ・難聴への周囲の理解

### <情報収集・支援体制関係>

- ・親が子どもにしてあげられることを知りたい
- ・難聴児の保護者から話を聞きたい、交流の場がほしい
- ・手話を学べる場
- ・行政から相談窓口や専門機関を紹介してほしい
- ・福祉制度の周知

### <その他>

- ・手話言語条例の活用
- ・同じ年代の難聴児と交流する場
- ・邦画の字幕がない